

を宇万能賣 屋船福 生又穀而苦酒を神
饗食之けふの又穀を考ればあち神とたふ
天上は産——る神なり——
を勅達——て神久——を幾代よめぬと天
上は産を考是始よ四傳んとの歌あべ——
津嶋の当社地名なり其深の中——て人
家も二三軒あり今ハ畧——て嶋といふ和
示雅出羽の各所の中は八十嶋といふあり
按ずるにけふ——てハ嶋の訛もや又八十
嶋ハ八津嶋の轉讀もや又ハ十八嶋を八十

嶋といふもや和に八十嶋といふ——と云ふ中
は示小似——り社家三津氏当社を古儀を

一八 播磨

仁加保坂崇教をくれ——社なり——八月十
又日多礼あり町中神樂を渡を社家一人
あり 佐辰 例年正月吹浦の神祇神事のため
地利下向の者なり 当社ハ秘記一姓あり浮
世の化文も——て附会の手多——意は史不
顯顯——て伝用するに足に在二社の名——
能也神社祇園社古田王社何れも社家有